



# 歴史

## トゥールミンモデルを使った 論理的思考力の育成をめざした授業 ～「大航海時代の幕開け」を題材に～

山形県 山形市立第九中学校 板垣秀倫

### 1 単元の構成と本時の目標

新学習指導要領では世界史の扱いが増えるという。日本の歴史はつねに世界の諸事象の影響を受けてきたにもかかわらず、私はそのようすを生徒に伝えきれていなかったのではないかと思う。『社会科 中学生の歴史』（以下、教科書）第4部1章「大航海によって結びつく世界」（p.86～91）では、世界と日本の結びつきや、16世紀以降の日本の特色を形づくる背景についてしっかりと考えさせたいものである。

新学習指導要領の社会編の解説第3章「1指導計画の作成上の配慮事項」には、「主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない」とある。単元など内容や時間のまとまりのなかでいかに知識を関連づけさせ、考察し、表現させるかが重要になるため、表1のように単元を構成

し、第1～3時のまとまりを通して、ヨーロッパ人來航の背景およびその影響を考えさせるようにした。第2時である本時の目標は「新航路開拓の背景を説明し、新航路開拓が世界に与えた影響を理解する」こととした。

なお、高校の世界史の資料集には、「この図はわかりやすい」「この資料は中学生に見せるのにも良い」と思う資料も多いので、本授業では、高校の資料集『明解世界史図説エスカリエ 十訂版』（以下、『明解世界史図説エスカリエ 十訂版』）の資料も活用した。



### 2 トゥールミンモデルの使用

新学習指導要領の歴史的分野の目標（2）には「歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多

表1 単元の構成

時限	学習目標	学習活動	評価規準・観点
第1時	イスラムの拡大とヨーロッパ 11～15世紀のヨーロッパで起きた二つの変化を理解する。	イスラム勢力の広がりによって、キリスト教中心のヨーロッパに起きた変化を理解する。	ルネサンス・宗教改革という二つの変化について理解している。[知]
第2時	大航海時代の幕開け〈本時〉 新航路開拓の背景を説明し、新航路開拓が世界に与えた影響を理解する。	資料をもとに、新航路開拓の背景を考察する。また、その結果世界に与えた影響を理解する。	新航路を開拓した背景を複数の観点から説明できる。また、アメリカ・アフリカ大陸に与えた影響を理解している。[資・知]
第3時	東アジアの貿易と南蛮人 ヨーロッパの国々との交流で日本がどのような影響を受けたか説明する。	当時のようすを『南蛮屏風』から読み取り、ヨーロッパとの貿易や交流が日本に与えた影響をさまざまな立場から説明する。	「民衆」「大名」「商人」などの立場から、ヨーロッパの国々との交流の影響を説明することができる。[思]

面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」とある。生徒には、歴史事象の意味や意義を考察するとき、根拠となる事実にもとづいた理由づけができるようになってほしい。そのため、論理的に主張を組み立てる訓練として、本授業ではツールミンモデルを使用した。ツールミンモデルとは、イギリスの分析哲学者スティーブン＝ツールミンが提唱した論理のモデルであり、根拠(事実)・理由づけ(論拠)・主張の三つを基本的な構成要素とする(図1)。

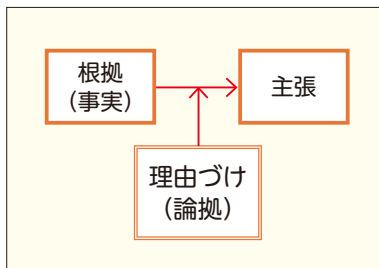


図1 ツールミンモデルのイメージ図

このモデルを使うことで、根拠とした資料から事実を読み取るだけでなく、事実を自分なりに解釈できるようになる。このモデルを使って仲間の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりする活動を通して論理的思考力を養いたい。

### 3 授業の展開

授業は前時の復習から始め、十字軍前後のローマ教皇の権力の盛衰とルネサンス、宗教改革とその影響について確認した。

次に、教科書p.88～89の本文を読み、基礎的な知識を確認していった。本文を読む際、当てられた生徒が句点の区切りまで音読し、教師がその内容に関する質問をするという方法をとっている。学力の低い生徒や社会科が苦手な生徒も発言でき、自己有用感をもたせることが

できる。今回も30人中25人ほどは挙手していた。

本文を読みながら、当時の航海のきびしさを示す資料をエスカリエから提示した(図2)。

**苦しかった当時の航海**

マゼラン一行 (マガリヤニス)	出航時(1519年8月) 5隻 270～280名	帰国時(1522年9月) 1隻 18名
--------------------	-----------------------------	------------------------

航海中、天候が悪化すると料理の火はおこせず、乾パンや塩づけ肉、飲料水も1日1リットルに制限された。病死した船員の多くは、ビタミンCの欠乏による壊血病にかかっていた。

図2 『明解世界史図説エスカリエ 十訂版』p.121

これほどの危険をおかして、当時のヨーロッパ人たちがなぜ新航路の開拓に挑んだのか、生徒の興味喚起をはかったところで、いよいよツールミンモデルを使った新航路開拓の背景の考察にはいる。本時では、主張の部分に「新航路の開拓につながった」に固定し、その背景の説明を組み立てさせるようにした。新航路開拓の背景としては図3のような要素がある。生徒には、教科書p.86～89や、教師が提示した資料(資料1～3、次ページ参照)から根拠と理由づけを考え、新航路開拓の背景に迫るようながした(教科書でふれられていない「中央集権国家の形成」は除く)。

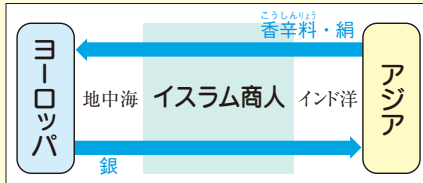
**経済**：香辛料の需要増大、不安定な東方貿易(オスマン帝国の東地中海進出)  
**政治**：中央集権国家の形成と国王の援助(領土・黄金への欲求)  
**文化**：東方への関心(マルコ＝ポーロ著『世界の記述(東方見聞録)』)  
**宗教**：カトリックの拡大(プレステ＝ジョアン[プレスター＝ジョン]の伝説\*)  
**科学**：地球球体説(トスカネリ主張)・羅針盤・航海術・造船技術の発達  
\*東方にキリスト教国を建てたというジョアンの伝説を信じたことも進出の原動力となった。

図3 新航路開拓の背景(『明解世界史図説 エスカリエ 十訂版』p.121) ※生徒には提示していない

初めてツールミンモデルを使った学級では、生徒に丁寧に説明したうえで考えてもらうことにしている。まず目についたのは、根拠や理由づけがあいまい、もしくは根拠と理由づけの内容が逆になってしまう生徒である。根拠は事実であるので、教科書や資料から読み取れることを使うように指導した。次に、理由づけがなかなか書けない生徒には、「こういうことが言えるのではないか?」という予想でもかまわない

…ジパングは東方の島で、大洋の中にある。住民は肌の色が白く礼儀正しい。島では金が見つかるので、彼らは限りなく金を所有している。しかし大陸からあまりに離れているので、この島に向かう商人はほとんどおらず、そのためたくさんの量の金であふれている。(中略) 屋根がすべて純金で覆われているので、その価値は計り知れないほどである。床も厚みのある金の板が敷きつめられ、窓も同様であるから、宮殿全体では誰も想像できないほどの並外れた価値がある。

資料1 マルコ=ポーロ著『世界の記述(東方見聞録)』より



資料2 『アドバンス中学歴史資料』p.74

〔⑥新航路発見による貿易の変化 大航海時代前の貿易〕

### 豆知識 金と同じ価値があった香辛料

ヨーロッパでは、香辛料は薬や食料の保存、調味料として使われる生活に欠かせない商品でした。ニンニクやミントなどのヨーロッパでも育つ香辛料も使われていましたが、インドのこしょう、モルッカ諸島のナツメグやクローブなどは人気が高く、ヨーロッパでは原産地の数百倍の価格で取り引きされました。イスラム商人やイタリア商人の手を介さずに直接貿易したいという望みが新航路の発見につながりました。

▼③こしょう ▼④ナツメグ ▼⑤クローブ(丁香)

資料3 『アドバンス中学歴史資料』p.74

(写真:ユニフォトプレス)

と伝えると手が動きだした。Aさんは、資料3を根拠に「当時高価だった香辛料を買いつけ、利益を得ようとした」、Bさんは教科書p.89「④16世紀初めの世界のようす」の地図や、資料2・3を根拠に「イスラム商人を通さずに、直接香辛料を手に入れたかったから」、Cさんは前時の授業の内容(教科書p.86~87)を根拠に、「カトリック(勢力)が外国に布教しようとしていたから」と理由づけした。複数の資料を根拠に理由づけを行ったり、既習事項にふれたりしようとするのは、知識の構造化、関連づけができていく姿であると思う。Dさんは手が止まっていたため、私が「もしあなたが冒険家で、東の

ほうに金であふれた国があると聞いたらどう思う?」と言うと、「行きますよ! そりゃ!」と返してくれたので、それをそのまま書いて良いと伝えると「金がほしい。自分のものにしたいから」と理由づけした。

「一つの資料を使った人はほかの資料からも考えてみよう」と声をかけながら全員ができるのを待ち(約10分)、まずは隣の席の人と意見交流をし、次に同じ資料を使った人と、最後に自由交流とすると、だいたいの考えを共有することができた。意見交流のときには「みんなで考えを言い合えると、自分の考えも深まるし、自分では気づかなかったことも知れるから良い

表2 本時の学習

学習活動【形態】	指導上の留意点・教師の支援
1 前時の復習を行う。【全体】 2 新航路開拓の背景を資料にもとづいて説明する。【個人】→【隣の席の人と意見交流】→【同じ資料を使った人と意見交流】→【自由交流】 3 新航路開拓により、アフリカやアメリカ大陸に起きた変化を理解する。【全体】 4 今日の授業で勉強になったことや疑問に思ったことなど感想を記入する。【個人】	○根拠とした資料・理由づけ・主張の関係を明らかにするために、ツールミンモデルを使用する。このモデルの使用にとまどう生徒のために机間巡視を行い、丁寧に説明する。 ○一つの根拠・理由づけだけではなく、複数の観点から説明するようながす。 ○どのような変化が起きたのかを具体的にとらえさせるため、図版やグラフなどを提示して説明する。

よね」と声をかけることを忘れないようにしている。机間巡視の間に的を射た理由づけを見つけ、代表して発表してもらい板書をした。

まとめとして、新航路開拓による世界への影響をおさえておきたい。パワーポイントを使い、ヨーロッパとアメリカ大陸の間で食べ物、動物、病原体などさまざまなものが交換されたこと（コロンブスの交換）を説明し、トマトやとうがらしなどの原産地を考えさせた。「トマトはイタリアでしょ?」「とうがらしは中国じゃない?」「いや、韓国でしょ?」など、さまざまな考えが出てきたところで、エスカリエを参考にヨーロッパとアメリカ大陸の間で交換されたものをまとめた表（図4）を提示した。

アメリカ大陸からヨーロッパへ伝わったもの	ヨーロッパからアメリカ大陸へ伝わったもの
とうもろこし じゃがいも トマト とうがらし たばこ カカオ かぼちゃ 梅毒（感染症の一種）	キリスト教 鉄・車輪 馬・牛などの大型家畜 天然痘・インフルエンザ・はしかなどの疫病

図4 『明解世界史図説エスカリエ 十訂版』 p.121  
「コロンブスの交換」～文明の交流と破壊 より

トマトやとうがらしはアメリカ大陸から伝わったことに気づくと、「へえ～」と声があがる学級もあった。さらに、スペインはアステカ王国やインカ帝国を征服して植民地を築き、先住民にきびしい労働をさせたこと、感染症の流行や過酷な労働で先住民の人口が激減したことを伝え、資料集からグラフを提示した（図5）。

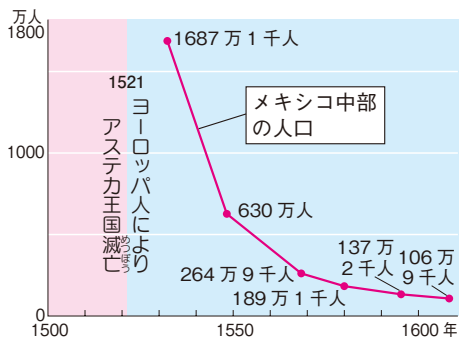


図5 『アドバンス中学歴史資料』 p.75  
「⑬アメリカ先住民の人口の変化」

そして、先住民が減少すると、アフリカから人々を連れてきて、奴隷として強制的に働かせたことにふれた。

最後に、大航海時代の前後で貿易のようすがどのように変化したのかを整理し（図6）、各自ふりかえりを書いて授業は終了した。

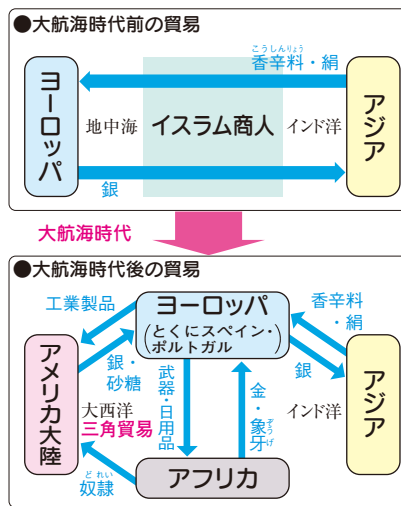


図6 『アドバンス中学歴史資料』 p.74  
「⑥新航路発見による貿易の変化」

## 4 終わりに

生徒のふりかえりには「宗教改革やルネサンスがスペインやポルトガルの繁栄につながっていることがわかった」「さまざまなことが影響し合って新航路が開拓されたということがわかった」などとあり、前時の学習内容とも関連させつつ理解することができたようであった。

平成31～32年度の「ヨーロッパ人來航の背景」の内容の取り扱いは、新学習指導要領の規定によることになる。現行の教科書を使って世界史の内容を意識的に重点化して進めることができるので、今回の授業実践をベースとして来年度以降の授業を計画したいと考えている。

帝国書院の指導者専用サイトに、本授業研究のワークシートを掲載しています。  
(<https://www.teikokushoin.co.jp/members/>)